



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

イラン経済：石油・ガス関連（3月2日～25日）

1. 100億米ドル分の債権発行（2日付シャルグ紙）

イラン石油省は、石油・ガス・プロジェクト向け資金を調達するため、100億米ドル分の債権を、来年〔ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1392年（2013年3月21日～2014年3月20日）〕発行する予定である。この案は、現在提出されている予算案にも反映されている。イラン国内の石油プロジェクトの開発資金は、国家開発基金の18%や、イラン・リヤール建および外貨建債権の発行、100億米ドル規模の石油省子会社の株式売却等、様々な資金調達方法を模索している。

2. イラン企業石油化学製品販売ランキング（5日付IranOilGas.com）

ヒジュラ太陽暦（イラン暦）1391年（2012年3月20日～2013年3月20日）のイラン企業石油化学製品販売ランキングにおいて、Nouri Petrochemical Co.が40兆9,000リヤールを売り上げ、第1位を獲得した。第2位にはBandar Imam Petrochemical Co.（旧IJRC）の30兆8,000リヤール、第3位にはPetrochemical Commercial Co.の29兆9,000リヤールが続いている。

3. 石油輸出業者組合会長の発言（6日付シャルグ紙）

石油輸出業者組合のホスロージェルディー会長は、イランの民間企業が原油輸出を停止したことに、「国内銀行は民間セクターによる原油輸出への支援を停止した。これにより、NIOC（National Iranian Oil Company、イラン国営石油会社）は民間セクターに対し、信用ベースで原油を引き渡さなくなる」と述べた。

4. 国営石油精製販売会社総裁の発言（16日付イーラーン紙）

国営石油精製販売会社（NIOOPDC）のモスタファー・カシュクーリー総裁は、補助金合理化第二弾を実施しない場合、ガソリン消費量は、現在の日量6,800万リットルから8%増の7,000万リットルに増加し、軽油に関しても同様に増加するであろうと警鐘を鳴らしている。

5. 国営タンカー会社の新総裁（17日付テヘラン・タイムズ紙）

NITC（国営タンカー会社）は、アリー・アクバル・サファイー氏を新たな総裁として迎えると、メフル通信が伝えた。同人は同社の役員を務めている。NITCは、輸送能力が合計6,000

万バーレルある 30 の大型タンカーを有し、14 の中小規模のタンカーも保有する。

6. 中国によるイラン産原油輸入量（25 日付ハムシャフリー紙）

中国税関のデータによれば、2013 年 2 月のイラン産原油輸入量は、同 1 月の日量 30 万 1,000 バーレルから 68%上昇し、52 万 1,000 バーレルであると、ロイター通信が報じた。中国政府によれば、Sinopec が 2012 年に比べ、イラン産原油の精製量を増加させているとのことである。2013 年 2 月の中国の輸入量は、2012 年 2 月の 28 万 9,000 バーレルから 81%増となっている。3 月の IEA の報告では、2 月に実施された米国の新たな対イラン制裁が石油収入をイランへ還流させることを禁じているとしているが、2 月の輸出に対する影響はなかったようである。